

【論文】

青少年の規範意識・自尊感情に関する実証的研究 —岐阜県の高校生・大学生対象質問紙調査結果に基づく考察—

An Empirical Study on Norm-consciousness and Self-esteem of Youth :An Analysis Basing Data of Questionnaire for High School Student and University Student in Gifu Prefecture

林 幸克 HAYASHI Yuki-yoshi
明治大学

要旨

本稿は、高校生・大学生を対象とした質問紙調査から、規範意識・自尊感情の異同を実証的に検証したものである。その際、岐阜県教育委員会と岐阜県警察本部が連携して行うMSリーダーズ活動の取り組みを勘案して考察を行った。その結果、規範意識について、高校生は、MSリーダーズ活動の取り組みを反映して、身だしなみや時間厳守、あいさつなどの意識が高いこと、大学生は情報モラルや乗車マナーについて意識が高いことが明らかになった。自尊感情では、概ね大学生の意識が高いことが示された。特に、大学生では等身大の自分を受け入れる意識が強いことが明示された。また、高校生は学年進行に伴って、他者との関わりを通して自分の存在意義を見出す意識が強くなっていることがわかった。本稿の課題として、岐阜県の事例に留まることなく、一般化に向けて研究を継続・拡大させること等の必要性が示された。

キーワード

規範意識、自尊感情、MSリーダーズ活動、高校生、大学生

I. 問題意識

子どもの「生きる力」を育むことの重要性は、中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（1996）で示されて以来、今日まで様々な場面で指摘されている。最近の諸提案等に注目すると、中央教育審議会生涯学習分科会今後の放課後等の教育支援の在り方に関するワーキンググループ「子供たちの豊かな学びのための放課後・土曜日の教育環境づくり」（2014）では、「子供たちの主体性を引き出し、地域で役に立つ経験や、失敗を恐れずに挑戦する経験等を通じて、自尊心や達成感が高まるような機会が充実することも重要である」とされている。また、道德教育の充実に関する懇談会「今後の道德教育の改善・充実方策について（報告）」（2013）では、「人間の在り方に関する根源的な理解を深めながら、社会性や規範意識、善悪を判断する力、思いやりや弱者へのいたわりなどの豊かな心を育むことが求められている」として、「特別の教科 道德」（仮称）に言及され、小学校・中学校の学習指導要領一部改正（2015）により、正式に道德が教科化された。総じて、規範意識・自尊感情に関連した記述が散見されることがわかる。

その規範意識・自尊感情に関わる子どもの意識・実態に着目すると、文部科学省・国立教育政策研究所「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書 質問紙調査」(2014) では、自尊意識（「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」「自分には、よいところがあると思いますか」）で小学生と比較して中学生がやや低いことが示されているが、その他の項目では、小学生・中学生ともすべてで 90%を超えている（表 1 参照）。

表 1 平成 26 年度全国学力・学習状況調査にみる「自尊意識」と「規範意識」

		小学6年生	中学3年生
自尊意識	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	94.4	93.9
	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	75.2	68.0
	自分には、よいところがあると思いますか	76.2	67.3
規範意識	学校のきまりを守っていますか	90.5	92.9
	友達との約束を守っていますか	97.3	97.0
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	94.4	95.3
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.3	93.3
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.1	93.9

（注）表中の数値は、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計（%）である。

また、文部科学省「平成 25 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について」(2014) では、暴力行為の加害児童生徒に対する学校の対応「指導等の内容」¹⁾ で、75%前後の児童生徒が、学校内において「ルールの徹底や規範意識を醸成するための指導」を受けていることが示された（表 2 参照）。特に高等学校では、学校の内外を問わず、この指導が最上位となっている。

表 2 暴力行為の加害児童生徒に対する学校の対応「指導等の内容」（抜粋） 単位：%

		小学校	中学校	高等学校
被害者等に対する謝罪指導	学校内	78.5	85.3	69.3
	学校外	78.1	63.1	66.8
友人関係を改善するための指導	学校内	57.7	48.9	56.8
	学校外	52.9	36.2	49.2
ルールの徹底や規範意識を醸成するための指導	学校内	73.1	74.5	77.6
	学校外	68.0	62.3	75.7

（注）表中の数値は、各々の指導に該当する人数を、加害児童生徒数で割って、筆者が算出したものである。

規範意識・自尊感情についての先行研究を概観すると、兄井ら²⁾ は、小学生・中学生対象調査を行い、自尊感情について、小学生では学年進行に伴い得点が低下し、中学生では学年間の変化が小さいこと、規範意識について、中学 3 年生男子を除いて小学生・中学生とも学年進行に伴い得点が低下し、女子の方が一貫して高い値であることを示した。

小学生・中学生・高校生を対象とした研究では、洲崎ら³⁾が、質的分析から、「自己認識」は「自己－他者関係」との関連の中で高まること、「自己認識」の高まりは「自己理解」を超え、「自己肯定」につながることを明らかにしたもの、齋藤ら⁴⁾が、学年進行に伴って、インターネットの学習で得た知識が自らの行動規範となり得ていないことを示した研究がある。中学生と高校生に焦点を当てた論考は、馬居ら⁵⁾が、中学生は既存規範に同調傾向にあり、高校生は関係志向が強いことを明示したもの、田中⁶⁾が、規範意識は、高校生の方が中学生よりも曖昧で、問題行動の許容性も高校生の方が高いことを明らかにした研究がある。また、朴⁷⁾は、高校生対象調査から、「級友や仲間との関係が良好であることが、問題行動への同調を引き起こす可能性（を向上させること）があると予測できる」と結論づけた。

このように、小学生・中学生・高校生を対象としたり、それらを比較した知見は散見される。しかし、大学生までを射程に収めた検証については、関水⁸⁾が、「不良行為」に関しては高校生の方が厳しい判断をしており、「敬語の不使用」は大学生の方が厳しい判断であったことを示した論考などがあるが、比較的少ない状況で、研究成果の蓄積が潤沢であるとは言い難い。そこで本稿では、その研究成果の蓄積の一助とすべく、高校生と大学生を対象にした質問紙調査から、両者の規範意識・自尊感情の異同を実証的に検証することを試みる。これは、高校生と大学生の各々の発達段階に即して、規範意識・自尊感情を育むためにいかなる支援が必要であるのかを明らかにすることになり、規範意識・自尊感情の育成の観点から高大接続の在り方を検討する一助となるという意義がある。なお、後述する MS リーダーズ活動を共通体験としている高校生と大学生の実態を考察しているが、管見のかぎり、そうした対象を分析の俎上にのせた研究はなく、本稿の独自性がそこにあるものと考えている。

II. 調査の目的・方法・内容

1. 目的

本稿における調査は、高校生と大学生の規範意識・自尊感情を明らかにし、両者の異同を踏まえた規範意識・自尊感情の育成支援の在り方を考察するために行うものである。

2. 対象・方法

2013 年 11 月から 12 月にかけて、岐阜県公立高等学校 6 校（普通科 2 校、専門学科 2 校、総合学科 1 校、普通科・専門学科併設 1 校）の生徒を対象に、郵送法による質問紙調査を行った。6 校の生徒 564 名から回答を得て、そのうち、558 名分（男子 274 名・女子 284 名、1 年生 224 名・2 年生 176 名・3 年生 158 名）を有効回答として集計した。

また、2014 年 2 月に、国立大学教育学部の 3 年生を対象に、講義「特別活動と学級経営」内で自記式の質問紙調査を行った。学生 239 名から回答を得たが、本稿では、岐阜県内の高等学校出身者 173 名分（男子 73 名・女子 100 名）を集計した。

3. 内容

質問項目は、高校生に対しては、高等学校入学後から今までに取り組んだことがあること（14 項目）、大学生に対しては、高校生が在学中に取り組んだ方がいいと思うこと（14

項目)、高校生・大学生共通で規範意識に関するものとして、今の高校生が強く意識した方がいいと思うこと(8項目)、同じく共通で自尊感情に関するものとして、今の自分の気持ち(22項目)⁹⁾などである。

4. MS リーダーズ活動について

本稿では、岐阜県の高校生と岐阜県内の高等学校出身の大学生を対象に比較検討を行うが、両者の共通体験としてMS リーダーズ活動がある。MS リーダーズ活動とは、2001年から岐阜県教育委員会と岐阜県警察本部が連携して始めた活動で、MはManners(規範、礼儀作法)、SはSpirit(意識、精神)の略で、岐阜県の高校生が自ら自発的に取り組む非行防止・規範意識啓発活動である。後述する高等学校在学中の取り組みに関する設問と規範意識に関する設問は、このMS リーダーズ活動の内容に即して作成したものである。

MS リーダーズ活動の現況に関して、岐阜県高等学校生徒指導研究会「平成25年度MS リーダーズ活動報告書」(2014)によると、2013年度のMS リーダーズ活動への学校参加率は90.5%で、本稿の調査対象校はすべて参加している。また、同じく対象とした大学生の多くが高等学校在学期間中であった2008年度の学校参加率は88.3%、2009年度87.4%、2010年度89.5%であった。なお、MS リーダーズ活動の活動形態や活動状況等の詳細は、林¹⁰⁾を参照されたい。

III. 結果

1. 高等学校入学後から今までに取り組んだことがあること

高校生が高等学校入学後から今までに取り組んだことがあることを複数回答で聞いた。大学生には、高校生が在学中に取り組んだ方がいいと思うことを複数回答で聞いた(表3参照)。後述の男女比較、学年比較、高校生・大学生比較については、 χ^2 検定を行った。

高校生の男女比較をすると、男子の回答が有意に多かった項目は「2 あいさつ運動」「3 交通安全マナーの呼びかけ」「7 施錠確認や二重ロック推奨などの自転車盗難防止活動」の3項目、女子の回答が有意に多かった項目は「4 地域のイベント(お祭りやスポーツ大会など)の参加・補助」「11 高齢者との交流」「12 乳幼児との交流」の3項目だった。学年比較では、「1 通学路や学校周辺の地域清掃」で3年生の回答が有意に多いこと、「2 あいさつ運動」で2年生の回答が有意に少ないこと、「5 自転車の安全点検」「7 施錠確認や二重ロック推奨などの自転車盗難防止活動」の2項目で3年生の回答が有意に少ないこと、「6 駅の駐輪場の整理・整頓」で2年生の回答が有意に多いことが示された。大学生の男女比較では、「4 地域のイベント(お祭りやスポーツ大会など)の参加・補助」「11 高齢者との交流」「12 乳幼児との交流」「13 障害者との交流」の4項目で女子の回答が有意に多かった。

高校生と大学生を比較すると、「1 通学路や学校周辺の地域清掃」「5 自転車の安全点検」の2項目で高校生の回答が有意に多く、「2 あいさつ運動」を除く11項目で大学生の回答が有意に多かった。

2. 今の高校生が強く意識した方がいいと思うこと

規範意識に関するものとして、今の高校生が強く意識した方がいいと思うことを複数回

表3 高校生の高等学校在学中の取り組み 単位：％

	高校生						
	男子	女子	χ^2 値(df=1)	1年生	2年生	3年生	χ^2 値(df=2)
1 通学路や学校周辺の地域清掃	46.7	41.5	1.51	39.3	36.4	59.5	21.57**
2 あいさつ運動	44.9	21.5	34.58**	35.3	25.0	38.6	7.87*
3 交通安全マナーの呼びかけ	17.2	10.2	5.71*	17.4	9.7	12.7	5.21
4 地域のイベント(お祭りやスポーツ大会など)の参加・補助	33.2	46.1	9.71**	37.9	35.2	47.5	5.74
5 自転車の安全点検	44.9	38.7	2.17	55.4	45.5	18.4	53.61**
6 駅の駐輪場の整理・整頓	4.7	6.7	0.98	4.9	9.7	2.5	8.29*
7 施錠確認や二重ロック推奨などの自転車盗難防止活動	17.5	8.1	11.14**	19.2	11.9	4.4	18.34**
8 青少年の健全育成・非行防止キャンペーン活動	4.4	7.0	1.83	8.0	4.0	4.4	3.70
9 地域の安全のための防犯キャンペーン活動	5.1	2.1	3.62	5.8	1.7	2.5	5.50
10 薬物乱用防止キャンペーン活動	4.0	1.8	2.54	4.0	3.4	0.6	4.08
11 高齢者との交流	9.1	16.9	7.42**	13.8	14.8	10.1	1.77
12 乳幼児との交流	5.5	10.2	4.31*	5.4	10.2	8.9	3.51
13 障害者との交流	3.6	4.2	0.12	4.9	4.0	2.5	1.39
14 募金活動	13.5	15.8	0.61	16.1	14.8	12.7	0.86
	大学生			高校生と大学生の比較			
	男子	女子	χ^2 値(df=1)	高校生	大学生	χ^2 値(df=1)	
1 通学路や学校周辺の地域清掃	19.2	30.0	2.61	44.1	25.4	19.20**	
2 あいさつ運動	30.1	31.0	0.01	33.0	30.6	0.33	
3 交通安全マナーの呼びかけ	19.2	29.0	2.18	13.6	24.9	12.23**	
4 地域のイベント(お祭りやスポーツ大会など)の参加・補助	39.7	56.0	4.47*	39.8	49.1	4.74*	
5 自転車の安全点検	28.8	34.0	0.53	41.8	31.8	5.49*	
6 駅の駐輪場の整理・整頓	24.7	29.0	0.40	5.7	27.2	62.93**	
7 施錠確認や二重ロック推奨などの自転車盗難防止活動	15.1	25.0	2.53	12.7	20.8	6.90**	
8 青少年の健全育成・非行防止キャンペーン活動	24.7	27.0	0.12	5.7	26.0	57.61**	
9 地域の安全のための防犯キャンペーン活動	17.8	21.0	0.27	3.6	19.7	49.84**	
10 薬物乱用防止キャンペーン活動	19.2	24.0	0.57	2.9	22.0	70.40**	
11 高齢者との交流	30.1	62.0	17.15**	13.1	48.6	98.53**	
12 乳幼児との交流	21.9	40.0	6.30*	7.9	32.4	67.04**	
13 障害者との交流	34.2	63.0	13.96**	3.9	50.9	227.46**	
14 募金活動	20.5	34.0	3.76	14.7	28.3	16.67**	

**p<.01 *p<.05

答で聞いた(表4参照)。また、「1. 高等学校入学後から今までに取り組んだことがあること」と同様に χ^2 検定を行った。

高校生の男女比較をすると、「1 制服の着方などの身だしなみ」「4 自転車の乗り方などの交通安全マナー」の2項目で男子の回答が有意に多かった。学年比較では、「3 身

表4 今の高校生が強く意識した方がいいと思うこと 単位：%

	高校生						
	男子	女子	χ^2 値(df=1)	1年生	2年生	3年生	χ^2 値(df=2)
1 制服の着方などの身だしなみ	51.8	40.8	6.76**	42.4	46.0	51.9	3.36
2 時間を守ること	50.4	48.2	0.25	52.7	45.5	48.7	2.08
3 身近な人へのあいさつ	59.1	53.2	2.01	51.3	54.0	65.2	7.68*
4 自転車の乗り方などの交通安全マナー	51.8	41.9	5.52*	42.0	53.4	46.2	5.21
5 スマートフォンの使用などの情報モラル	51.5	47.5	0.86	44.6	48.3	57.6	6.36*
6 電車・バスなどの乗車マナー	44.2	43.3	0.04	34.4	45.5	55.1	16.43**
7 薬物乱用防止に関すること	38.7	33.8	1.44	35.7	35.8	37.3	0.12
8 いじめに関すること	50.0	44.0	2.01	50.4	43.2	46.2	2.14
	大学生			高校生と大学生の比較			
	男子	女子	χ^2 値(df=1)	高校生	大学生	χ^2 値(df=1)	
1 制服の着方などの身だしなみ	30.1	34.0	0.29	46.2	32.4	10.36**	
2 時間を守ること	35.6	29.0	0.85	49.3	31.8	16.31**	
3 身近な人へのあいさつ	45.2	45.0	0.00	56.1	45.1	6.43*	
4 自転車の乗り方などの交通安全マナー	52.1	49.0	0.16	46.8	50.3	0.65	
5 スマートフォンの使用などの情報モラル	64.4	72.0	1.14	49.5	68.8	19.85**	
6 電車・バスなどの乗車マナー	54.8	73.0	6.17*	43.7	65.3	24.64**	
7 薬物乱用防止に関すること	27.4	22.0	0.67	36.2	24.3	8.44**	
8 いじめに関すること	49.3	48.0	0.03	47.0	48.6	0.14	

**p<.01 *p<.05

近な人へのあいさつ」「5 スマートフォンの使用などの情報モラル」の2項目で3年生の回答が有意に多かった。また、「6 電車・バスなどの乗車マナー」については、学年進行に伴って約10ポイントずつ増加していることがわかった。大学生の男女比較では、「6 電車・バスなどの乗車マナー」で女子の回答が有意に多かった。

高校生と大学生を比較すると、「1 制服の着方などの身だしなみ」「2 時間を守ること」「3 身近な人へのあいさつ」「7 薬物乱用防止に関すること」の4項目で高校生の回答が有意に多く、「5 スマートフォンの使用などの情報モラル」「6 電車・バスなどの乗車マナー」の2項目で大学生の回答が有意に多かった。

3. 今の自分の気持ち

自尊感情に関するものとして、今の自分の気持ちを聞いた(表5参照)。男女比較と高校生・大学生比較についてはt検定、学年比較はTukey法による多重比較を行った。

高校生の男女比較をすると、すべての項目で有意差は認められなかった。学年比較では、主に、「5 私は人のために力を尽くしたい」「11 私には自分のことを理解してくれる人がある」「17 自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している」「20 私には自分のことを必要としてくれる人がある」の4項目で3年生の得点が有意に高いこと、「7

表5 今の自分の気持ち（上段：平均点（4点満点）、下段：標準偏差）

	高校生										大学生				高校生と大学生の比較			
	男子	女子	t 値	1年生	2年生	3年生	Tukey 法による 多重比較	男子	女子	t 値	高校生	大学生	高校生	t 値				
1 私は今の自分に満足している	2.53 (0.82)	2.43 (0.84)	1.34	2.54 (0.90)	2.43 (0.85)	2.44 (0.69)	-	2.36 (0.73)	2.49 (0.80)	1.14	2.48 (0.83)	2.43 (0.77)	0.84					
2 人の意見を素直に聞くことができる	3.04 (0.61)	2.95 (0.63)	1.71	3.00 (0.67)	2.95 (0.58)	3.02 (0.63)	-	3.00 (0.65)	2.94 (0.65)	0.60	2.99 (0.62)	2.97 (0.65)	0.46					
3 人と違っても自分が正しいと思うことは主張できる	2.77 (0.74)	2.81 (0.67)	0.67	2.87 (0.70)	2.80 (0.71)	2.67 (0.70)	1年生>3年生**	3.08 (0.64)	2.73 (0.55)	3.79**	2.79 (0.61)	2.88 (0.61)	1.54					
4 私は自分のことが好きである	2.34 (0.83)	2.34 (0.78)	0.09	2.40 (0.84)	2.30 (0.81)	2.30 (0.74)	-	2.73 (0.82)	2.65 (0.73)	0.63	2.34 (0.80)	2.68 (0.77)	5.09**					
5 私は人のために力を尽くしたい	3.02 (0.73)	3.09 (0.72)	1.21	2.95 (0.77)	3.05 (0.72)	3.20 (0.63)	1年生<3年生** 2年生<3年生*	3.22 (0.63)	3.29 (0.62)	0.73	3.05 (0.72)	3.26 (0.63)	3.41**					
6 自分の中には様々な可能性がある	2.60 (0.75)	2.63 (0.74)	0.45	2.54 (0.86)	2.71 (0.70)	2.61 (0.61)	1年生<2年生*	2.97 (0.62)	2.89 (0.58)	0.88	2.62 (0.75)	2.93 (0.60)	4.98**					
7 自分はダメな人間だと思うことがある(逆転項目)	2.85 (0.87)	2.87 (0.82)	0.27	2.72 (0.93)	2.98 (0.79)	2.93 (0.76)	1年生<2年生** 1年生<3年生*	3.00 (0.71)	3.02 (0.67)	0.19	2.86 (0.84)	3.01 (0.68)	2.15*					
8 私はほかの人の気持ちになることができる	2.83 (0.64)	2.86 (0.70)	0.60	2.81 (0.72)	2.81 (0.65)	2.93 (0.62)	-	2.95 (0.55)	3.02 (0.59)	0.86	2.85 (0.67)	2.99 (0.57)	2.53*					
9 私は自分の判断や行動を信じていることができる	2.75 (0.69)	2.70 (0.69)	0.82	2.80 (0.78)	2.70 (0.65)	2.67 (0.59)	-	3.03 (0.60)	2.85 (0.66)	1.84	2.73 (0.69)	2.93 (0.64)	3.48**					
10 私は自分という存在を大切に思える	2.88 (0.77)	2.82 (0.70)	0.95	2.83 (0.84)	2.84 (0.71)	2.89 (0.59)	-	3.14 (0.67)	3.06 (0.60)	0.78	2.85 (0.74)	3.09 (0.63)	3.92**					
11 私には自分のことを理解してくれる人がある	3.14 (0.75)	3.17 (0.70)	0.43	3.04 (0.75)	3.15 (0.70)	3.34 (0.67)	1年生<3年生** 2年生<3年生*	3.22 (0.69)	3.33 (0.70)	1.04	3.16 (0.72)	3.28 (0.70)	2.08*					
12 私は自分の長所も短所もよく分かっている	2.90 (0.75)	2.89 (0.72)	0.11	2.91 (0.76)	2.84 (0.72)	2.93 (0.70)	-	2.99 (0.70)	2.97 (0.69)	0.15	2.89 (0.73)	2.98 (0.69)	1.36					
13 私は今の自分が嫌いだ(逆転項目)	2.51 (0.85)	2.55 (0.85)	0.66	2.41 (0.89)	2.57 (0.83)	2.66 (0.81)	1年生<3年生**	2.23 (0.86)	2.38 (0.76)	1.17	2.53 (0.85)	2.32 (0.81)	2.98**					
14 人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任をもって取り組む	3.00 (0.66)	3.04 (0.63)	0.84	2.99 (0.68)	3.01 (0.65)	3.08 (0.58)	-	3.16 (0.62)	3.07 (0.64)	0.97	3.02 (0.64)	3.11 (0.63)	1.63					
15 私は誰にも負けないもの(こと)がある	2.58 (0.90)	2.54 (0.89)	0.48	2.51 (0.95)	2.64 (0.90)	2.53 (0.80)	-	2.70 (0.78)	2.57 (0.82)	1.05	2.56 (0.89)	2.62 (0.80)	0.92					
16 自分には良いところがある	2.85 (0.75)	2.84 (0.70)	0.20	2.82 (0.81)	2.85 (0.69)	2.87 (0.63)	-	3.15 (0.62)	3.05 (0.63)	1.05	2.84 (0.72)	3.09 (0.62)	4.07**					
17 自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している	3.40 (0.63)	3.42 (0.63)	0.44	3.34 (0.69)	3.39 (0.61)	3.54 (0.52)	1年生<3年生** 2年生<3年生*	3.51 (0.53)	3.64 (0.56)	1.59	3.41 (0.63)	3.58 (0.55)	3.25**					
18 私は自分のことは自分で決めたいと思う	3.28 (0.63)	3.29 (0.58)	0.36	3.28 (0.62)	3.27 (0.61)	3.30 (0.58)	-	3.26 (0.73)	3.20 (0.70)	0.57	3.28 (0.61)	3.23 (0.67)	1.04					
19 自分は誰の役にも立っていないと思う(逆転項目)	2.32 (0.76)	2.32 (0.71)	0.04	2.29 (0.84)	2.41 (0.68)	2.27 (0.63)	-	2.03 (0.76)	2.10 (0.63)	0.67	2.32 (0.73)	2.07 (0.69)	4.17**					
20 私には自分のことを必要としてくれる人がある	2.82 (0.75)	2.87 (0.69)	0.80	2.77 (0.75)	2.82 (0.71)	2.98 (0.68)	1年生<3年生** 2年生<3年生*	3.01 (0.66)	3.12 (0.62)	1.07	2.85 (0.72)	3.08 (0.56)	4.00**					
21 私は自分の個性を大事にしたい	3.20 (0.69)	3.16 (0.66)	0.73	3.17 (0.71)	3.15 (0.68)	3.25 (0.63)	-	3.38 (0.54)	3.20 (0.57)	2.15*	3.18 (0.68)	3.28 (0.56)	1.67					
22 私は人と同じくらい価値のある人間である	2.93 (0.74)	2.85 (0.71)	1.46	2.89 (0.78)	2.84 (0.72)	2.94 (0.66)	-	3.04 (0.68)	3.05 (0.61)	0.08	2.89 (0.73)	3.05 (0.64)	2.56*					

**p<.01 *p<.05

自分はダメな人間だと思うことがある」で1年生の得点が有意に低いことが示された。大学生の男女比較では、「3 人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる」「21 私は自分の個性を大事にしたい」の2項目で男子の得点が有意に高かった。

高校生と大学生を比較すると、高校生の得点が有意に高かった項目は、「13 私は今の自分が嫌いだ」「19 自分は誰の役にも立っていないと思う」の2項目であった。大学生の得点が有意に高かった主な項目は、「4 私は自分のことが好きである」「6 自分の中には様々な可能性がある」「10 私は自分という存在を大切に思える」「16 自分には良いところがある」「20 私には自分のことを必要としてくれる人がいる」など12項目であった。

IV. 考察

1. 規範意識について

表4で高校生の回答が有意に多かった「1 制服の着方などの身だしなみ」「2 時間を守ること」「3 身近な人へのあいさつ」の3項目は、学校生活に密着した内容で、表3の在学中の取り組みで「1 通学路や学校周辺の地域清掃」「2 あいさつ運動」が比較的多く、MSリーダーズ活動を通して培われた意識ではないかと推察される。自分が直接的にMSリーダーズ活動を行っている場合はもちろん、たとえ取り組んでいなくても、活動の様子を見聞することから間接的に影響を受けているのではないかと考えられる。また、高校生という立場で、日頃から教師等から指導されていることの反映なのかもしれない。他方、大学生、特に教育学部に在籍して、教育実習を終えた大学生にしてみれば、指導する立場で規範意識を捉えていると考えられる。調査対象の大学生の多くは公共交通機関での通学で、最寄駅から大学まで約35分間をバスで通学し、その沿線に複数の高等学校があり、高校生の乗降が日常的にある。そこでの様々な見聞を背景にして、「5 スマートフォンの使用などの情報モラル」「6 電車・バスなどの乗車マナー」について意識が有意に高くなっているものと思われる。なお、この2項目について、高校生の学年別の結果をみると、学年進行に伴って回答している割合が多くなっており、大学生の回答に近づいていることがわかる。

高校生と教育学部で学ぶ大学生で規範意識の捉え方に差があるということは、高校生と現場の教師の認識にも同様かそれ以上に差異があると思われる。木村¹¹⁾は、その差異を各種データから実証し、定義の解釈の違いが要因であることを指摘している。その知見を踏まえると、規範意識に関する事象として項目を提示する場合に、たとえ表記・音声は同一でも、その捉え方は個々によって異なり得ることを自覚する必要がある。その上で、指導する立場・指導される立場といった立場の違いに関係なく、見解の齟齬を埋めることが、規範意識の育成には不可欠であると考えられる。ただ、本稿では、教師の規範意識については調査等していないため推測の域を脱しないが、重要な論点であると思われるので、今後の検証が求められる。

2. 自尊感情について

表5で高校生の得点が有意に高かった「13 私は今の自分が嫌いだ」「19 自分は誰の役にも立っていないと思う」の2項目はともに逆転項目であることを勘案すると、概ね、大学生の自尊感情の方が高いと考えられる。特に、「4 私は自分のことが好きである」「6

自分の中には様々な可能性がある」「16 自分には良いところがある」「10 私は自分という存在を大切に思える」で高校生との得点差が大きく、大学生はありのままの自分を受け入れる意識が強いものと思われる。その一方で、「3 人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる」「14 人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任をもって取り組む」「18 私は自分のことは自分で決めたいと思う」の3項目では両者に有意差はなく、自己主張・決定に関しては顕著な違いがないといえる。高校生の学年比較に着目すると、「5 私は人のために力を尽くしたい」「11 私には自分のことを理解してくれる人がある」「17 自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している」「20 私には自分のことを必要としてくれる人がある」の4項目では、学年進行に伴って得点が上昇し、特に3年生の得点が有意に高かった。内容面で捉えると、3年生になるほど、他者との関わりを通して自分の存在意義を見出す意識が強くなっていると思われる。MSリーダーズ活動との関連で捉えると、学校外の警察関係者と一緒に活動に取り組むことが特色であることから、学年進行に伴い、質的にも量的にもそこでの関わり方が深化・拡大され、他者との関わりの中で自己を認識するようになったことが背景にあるのではないかと考えられる。

自尊感情と言っても、その内実は、大学生、あるいは高校生の学年進行によって異なる部分があることが示された。近藤¹²⁾が、自尊感情を基本的自尊感情と社会的自尊感情に区分けして捉えて、育成の在り方について論究しているように、自尊感情の構成要素等を吟味した上で、その特性を考慮しながら涵養することが求められると思われる。

V. 今後の課題

本稿では、岐阜県の高中生・大学生を対象とした質問紙調査から、規範意識・自尊感情の実態を検証した。その結果、両者の異同及び高校生の学年進行に伴う知見を提示することができたが、その過程で課題も見えてきた。

第1に、岐阜県の高中生・大学生に限定していることで、MSリーダーズ活動等を媒介とした具体的な考察が可能であったことはよかったが、その反面、一般化して解釈することはできない。本稿の成果を基盤に、全国調査へ発展させるなど、継続・拡大した研究を進める必要がある。

第2に、第1の課題とも関連するが、高校生の在学する高等学校の学科（普通科、専門学科、総合学科など）やタイプ（全日制、定時制、通信制）による比較検討も必要である。それぞれの独自性を明らかにすることができれば、施策を展開する方向性がより具体的にみえてくるものと思われる。大学生についても然りである。学年や専門性などを勘案して考察することが求められよう。

第3に、本稿では基本的に単純集計を中心に考察を進めてきたが、解釈を深めるには限界がある。サンプル数の蓄積を図りながら、多変量解析等を行い、詳細な分析を行うことも残された課題である。

第4に、青少年の捉え方に関することがある。本稿では、高校生・大学生という在学青少年を対象としている。しかし、進学率が上昇しているとはいえ、高校生・大学生相当年齢で働いている中卒・高卒勤労青少年も一定数存在する¹³⁾。そうした勤労青少年も対象に研究を進めることが本来あるべきであろう。ところが、自戒の念を込めて言えば、無意識

のうちに青少年を在学青少年に限定してしまうことがあることは否めない。勤労青少年も視野に入れた研究の構想・実践が課題として残された。

【付記】

本稿の高校生のデータは、日本生涯教育学会第35回大会自由研究部会Ⅷ（2014年11月23日開催）で報告したものである。その概要は、発表要旨集録 p.36 に収録されている。

引用文献・参考文献・注

- 1) 「指導等の内容」は、表2中の3項目のほかに、以下の5項目があるが、紙幅の都合で本稿では割愛した。
 - ・個別に学習支援 ・当該児童生徒が意欲を持って活動できる場を用意 ・教職員との関係改善
 - ・保護者の協力を求めて、家族関係等の改善・調整 ・その他
- 2) 兄井彰・須崎康臣「福岡がめざす子ども尺度の作成」『日本生活体験学習学会誌』第13号、2013、pp.85-92.
- 3) 洲崎洋昭・伊藤安浩・軸丸勇士「体験学習法が子どもの「自己－他者関係」「自己認識」に及ぼす影響に関する研究－湯布院町ジュニアリーダー育成プログラムの分析を通して－」『日本生活体験学習学会誌』第8号、2008、pp.33-46.
- 4) 齋藤長行・新垣円「青少年のインターネット利用における規範意識を育てるための協働学習についての研究」『情報処理学会論文誌』18(2)、2011、pp.60-67.
- 5) 馬居政幸・松永由彌子・一杉浩史・三澤茂子「青少年の規範意識に関する調査研究」『静岡大学教育学部研究報告 教科教育学篇』第34号、2003、pp.11-31.
- 6) 田中寛二「青少年の規範意識の測定に関する研究－年齢・性別比較－」『人間科学』5(琉球大学)、2000、pp.11-37.
- 7) 朴賢晶「仲間集団に着目した青少年の規範意識と問題行動との関係－志望モラリティ・義務モラリティを中心に－」『愛知文教女子短期大学研究紀要』30、2009、pp.51-62.
- 8) 関水しのぶ「高校生と大学生の規範意識の研究－道徳的及び慣習的、個人的側面と多重比較(Multiple Standard)の関係－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊』9号－2、2002、pp.59-71.
- 9) 今の自分の気持ち(22項目)については、慶応義塾大学「自尊感情や自己肯定感に関する研究」報告書(2010)の「自尊感情測定尺度(東京都版)」を使い、「あてはまらない」(1点)～「あてはまる」(4点)の4件法で質問した。
- 10) 林幸克「高校生の規範意識を育む生徒会活動－岐阜県における「MSリーダーズ活動」の事例－」『岐阜大学教育学部研究報告－人文科学－』第62巻第1号、2013、pp.241-255.
- 11) 木村好美「高校生と高校教師の規範意識」友枝敏雄・鈴木譲編著『現代高校生の規範意識』九州大学出版、2003、pp.11-36.
- 12) 近藤卓『自尊感情と共有体験の心理学』金子書房、2010、pp.3-6.
- 13) 平成26年度学校基本調査によると、高等学校・大学等進学率は各々98.4%・53.8%、中学校・高等学校の卒業者に占める就職者の割合は各々0.4%・17.5%となっている。